

ポスターセッション (P-分析-1 ~ P-分析-15)

国土環境(株)の小野田らは、水環境中のアルコールエトキシレートの分析を報告しており、ピリジニウム試薬を用いる誘導体化法および LC/MS により、全同族体を選択的に高感度で検出した。都健安研の鈴木らは、多摩川水系の河川水を対象にアレルギー治療薬による汚染を報告した。(株)共立理化学研究所の南らは、簡易水質分析キットに小型比色計を応用したものを紹介し、従来品の目視によるものよりも再現性が向上することを報告した。(株)堀場製作所の松原らは、太陽電池とデータの無線送信を備えており、無人で連続的遠隔計測可能な小型水質モニタリングシステムを紹介した。オルガノ(株)の川端らは、水中微量有機汚染物質の長時間連続捕集用ウォーターサンプラーを紹介しており、これは SS をろ過するカラムと固相抽出のための吸着剤を組み合わせたものである。秋田県環境センターの和田らは、ヘッドスペース-GC/MS 法による水中揮発性物質の一斉分析を検討し、塩化ビニルを含む 59 物質について評価基準を満たした分析ができることを示した。熊本県立大学の古賀らは、微量チロキシンの定量について、蛍光誘導体化法を用いる HPLC を提案し、従来法の LC/MS と比較した。兵庫県立健環研セの川元らは、熱分解型 GC/MS を用いるポリカーバメート型農薬の分析を報告した。産総研の崔らは、6 価クロムに選択性を示すイオノフォアを開発し、イオン選択性電極などの電気化学的計測に応用した。山梨大学の河野らは、マンガン酸化能をもつ細菌の FISH プローブ作成について報告した。産総研の北河らは、女性ホルモンに暴露された雄のヒメダカについて、遺伝子発現の変動をメダカマイクロアレイを用いて解析した。オルガノ(株)の丸谷らは、工場排水放流水系の生態系保護を目的として、メダカの群れの動きを CCD カメラで捉え、活動レベルの推移を監視する水質連続監視装置を開発した。Yonsei 大学の Choung らは、汚泥乾燥プロセスからの濃縮排水を脱窒過程における有機炭素源として用いること検討した。東京大学の李らは、蛍光ラベルファージ法による活性汚泥中の宿主細菌の検出を報告した。(独)土木研究所の陶山らは、リアルタイム RT-PCR 法による下水試料中の腸管系ウイルスの検出と、検出したウイルスの分子系統解析を行った。

(鹿児島大学工学部 大木 章)